



スピタル・がいづか

(42) 乳がんを早期発見するために

日本では2015年の1年間に全国で約9万6000人が乳がんと診断され、女性の生涯で11人に1人が乳がんになると言われています。このように乳がんは誰にとっても「他人事」ではありません。

乳がんの早期発見のためには、何より重要なのは、乳がん検診を受ける事です。市では39歳から39歳まで毎年超音波

検診、40歳以上の偶数年齢で2年に1度のマンモグラフィー検診を行っています。当院では乳腺専門医4人が在籍し、診断・治療・緩和ケアだけではなく検診も行っています。(検診のご予約は健診センターへ)



次に重要なのは自己検診です。乳がん検診を受けた後、次の検診までの間に毎月自己検診を行うことで早期発見できる可能性が広がります。自己検診の方法は、月に一度お風呂で行うのがお勧めです。石鹸で体を洗う際に胸にしこりがないか、円を描くように指の腹で触って調べます。また、鏡でえくぼや左右差がないかを観察します。

自己検診の方法については、乳腺外科受付でリーフレットを配布していますが、病院に来る機会がなにかたは、出前講座の「乳がん早期発見のための自己検診普及キャラバン隊」が地域に無料で出向き、乳がんや乳がん検診と自己検診についてお話します。是非ご利用ください。(お問合せは地域医療連携室へ)

今、出来ることをすることが早期発見につながり、大切な「あなた」とあなたの「ご家族」の明日の笑顔につながります。ぜひがんの早期発見や予防など、健康の保持増進についても当院にご相談ください。

乳がん看護認定看護師 梅本郁奈子

問合せ先

貝塚病院 ☎ 072・422・5865